

さけ・ます漁業振興事業調査

(抄録)

佐藤 恭成 ・ 塩 垣 優 ・ 十 三 邦 昭
山 内 高 博 ・ 蛭 名 政 仁 ・ 山 田 嘉 暢

1. 沿岸回帰状況調査

青森県沿岸の4定点においてサケ回帰親魚の測定を行い、年令と成長に関するデータ、成熟に関するデータの収集を行った。

2. 在来系群特性利用調査

青森県日本海側に遡上したサケ親魚の生物学的特性（主に繁殖形質）を調べ、在来系群と移殖系群の判別指標を探索した。その結果、11月に遡上した個体群の卵径が、10月、12月に遡上した個体群の卵径に比較して小さい傾向が観察され、その原因は系群の違いに由来することが推察された。

3. 日本海回帰率向上対策調査

- 1) 青森県鰺ヶ沢町赤石川とその前面海域の日本海および津軽海峡においてサケ幼稚魚の分布、成長および移動に関する調査を行った。
- 2) 幼稚魚の分布密度は、河川では4月中旬まで高く4月下旬以降低くなり、海峡では5月上旬まで高く、5月中旬、水温13℃以上では低くなっていた。
- 3) 標識放流魚は鰺ヶ沢沖、鰺ヶ沢漁港、小泊沖で再捕されたが津軽海峡の今別沖では再捕されなかった。
- 4) 標識放流魚は放流後36日目まで日本海海域で採集された。
- 5) 赤石川周辺海域の底刺網で漁獲された魚類の胃内容物を調べた結果、スズキ、ホッケそれぞれ1個体がサケ幼稚魚を捕食していた。